
令和元年 第7回臨時会

上富良野町議会会議録

令和元年10月29日

上富良野町議会

目 次

第1号（10月29日）

○議 事 日 程	1
○出 席 議 員	1
○欠 席 議 員	1
○遅 参 議 員	1
○早 退 議 員	1
○地方自治法第121条による説明員の職氏名	1
○議会事務局出席職員	1
○開会宣告・開議宣告	2
○議会運営等諸般の報告	2
○日程第1 会議録署名議員の指名について	2
○日程第2 会期の決定について	2
○日程第3 議案第1号 平成31年度上富良野町一般会計補正予算(第6号)	2
○閉 会 宣 告	6

令和元年第7回上富良野町議会臨時会付議事件一覧表

議案 番号	件 名	議決月日	結 果
1	平成31年度上富良野町一般会計補正予算(第6号)	10月29日	原案可決

○議事日程 (第1号)

- 第 1 会議録署名議員の指名について
第 2 会期の決定について 10月29日 1日間
第 3 議案第1号 平成31年度上富良野町一般会計補正予算(第6号)
-

○出席議員 (14名)

- | | | | |
|-----|-------|-----|--------|
| 1番 | 元井晴奈君 | 2番 | 佐川典子君 |
| 3番 | 高松克年君 | 4番 | 中瀬実君 |
| 5番 | 金子益三君 | 6番 | 中澤良隆君 |
| 7番 | 米沢義英君 | 8番 | 荒生博一君 |
| 9番 | 佐藤大輔君 | 10番 | 今村辰義君 |
| 11番 | 小林啓太君 | 12番 | 小田島久尚君 |
| 13番 | 岡本康裕君 | 14番 | 村上和子君 |
-

○欠席議員 (0名)

○遅参議員 (0名)

○早退議員 (0名)

○地方自治法第121条による説明員の職氏名

- | | | | | |
|-----|---|-------|----------|-------|
| 町 | 長 | 向山富夫君 | 副町長 | 石田昭彦君 |
| 総務課 | 長 | 宮下正美君 | 企画商工観光課長 | 辻剛君 |
-

○議会事務局出席職員

- | | | | | | |
|---|---|-------|---|---|-------|
| 局 | 長 | 深山悟君 | 次 | 長 | 岩崎昌治君 |
| 主 | 事 | 真鍋莉奈君 | | | |

午前10時00分 開会
(出席議員 14名)

◎開会宣告・開議宣告

○議長(村上和子君) 御出席まことに御苦勞に存じます。ただいまの出席議員は14名でございます。

これより令和元年第7回上富良野町議会臨時会を開会いたします。

直ちに、本日の会議を開きます。本日の議事日程は、あらかじめお手元に配付したとおりであります。

◎議会運営等諸般の報告

○議長(村上和子君) 日程に入るに先立ち、議会運営等諸般の報告をいたさせます。

事務局長。

○事務局長(深山 悟君) 御報告申し上げます。

本臨時会は、10月25日に告示され、同日議案等の配付を行い、その内容につきましては、お手元に配付の議事日程のとおりであります。

本臨時会に提出の案件は、町長から提出の議案1件であります。

本臨時会の説明員につきましては、町長以下、関係者の出席を求め、別紙配付のとおり出席しております。

以上であります。

○議長(村上和子君) 以上をもって議会運営等諸般の報告を終わります。

◎日程第1 会議録署名議員の指名について

○議長(村上和子君) 日程第1 会議録署名議員の指名について、を行います。

会議録署名議員は、会議規則第120条の規定により、議長において、7番 米沢義英君、8番 荒生博一君を指名いたします。

◎日程第2 会期の決定について

○議長(村上和子君) 日程第2 会期の決定について、を議題といたします。

お諮りいたします。本臨時会の会期は、本日1日間といたしたいと思っております。これに御異議ございませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○議長(村上和子君) 御異議なしと認めます。

よって、会期は、本日1日間と決定しました。

◎日程第3 報告第1号

○議長(村上和子君) 日程第3 議案第1号 平成31年度上富良野町一般会計補正予算(第6号)を議題といたします。提出者から提案理由の説明を求めます。

総務課長。

○総務課長(宮下正美君) ただいま上程いただきました議案第1号 平成31年度上富良野町一般会計補正予算(第6号)につきまして、提案の要旨を御説明申し上げます。

本件は、商工会が実施するプレミアム付商品券発行事業に対する助成措置を講ずるため、所要額の補正をお願いするものであります。

なお、必要な財源については、予備費から充当することで補正予算を調整したところであります。

それでは以下、議案の説明につきましては、議決項目の部分についてのみ説明をし、予算の事項別明細書につきましては省略をさせていただきますので、御了承願います。

議案第1号を御覧ください。

議案第1号 平成31年度上富良野町一般会計補正予算(第6号)。

平成31年度上富良野町の一般会計の補正予算(第6号)は、次に定めるところによる。

(歳入歳出予算の補正)。

第1条 歳入歳出予算の補正の款項の区分及び当該区分ごとの金額並びに補正後の歳入歳出予算の金額は、「第1表 歳入歳出予算補正」による。

1ページをお開きください。

第1表につきましては、款ごとの名称と補正額のみ申し上げます。

第1表、歳入歳出予算補正。

1、歳出。

7款、商工費、14,000千円。

12款、予備費、14,000千円の減。

歳出合計、0円。

以上で、議案第1号 平成31年度上富良野町一般会計補正予算(第6号)の説明といたします。

御審議いただき、議決くださいますようお願い申し上げます。

○議長(村上和子君) これをもって提案理由の説明を終わります。

これより議案第1号の質疑に入ります。

7番 米沢義英君。

○7番(米沢義英君) 質問させていただきます。先ほ

どの、若干の、ちょっと聞き忘れもありましたので、質問させていただきます。

まず一つ目には、今回、かみふらの得々商品券発行にあたって、限度額5万円という形になっております。事前の予約と、抽選の優先順位という形で身体障がい者や高齢者、子育て世帯、一般世帯という形になっておりますが、昨年、この抽選があったのかどうか、この点確認しておきます。

二つ目にお聞きしたいのは、今後のこの商品券の発行によって、営業努力強化に向けた取り組みといった形で商店街等の活性化支援制度という、会員の販売促進活動の活性化、強化という形になっています。二つ目には、当該事業に合わせた個店の独自のサービスの実施という形になっております。昨年と、どのような取り組みをされたのか、今年の、もう決まっているのであれば、どのような取り組みがされようとしているのか、この点お聞きしておきます。

三つ目にお聞きしたいのは、この説明の中では、いわゆる町内消費よりも町外消費が増えるという状況の中で、非常に、消費税増税もこの10月からされたという形の中で、苦戦が予想されるという形でうたわれておりますが、現在、上富良野町における消費の町外流出というのは大体、どのくらいあるのか、確認いたします。

四つ目にお伺いしたいのは、この取り組みにおいて何より大事なものは、日常的に顧客を確保するという取り組みが必要かというふうに思います。確かに、こういった商品券の発行も、一時的な喚起はあったにしても、日常的に消費者を取り込むということなくして商店街の活性化、地域の活性化もないかというふうに思いますが、この点で趣旨説明の中に地域カード決済システムなどの導入によって、地域の商工会の、工業の基盤整備に向けた具体的な、という形で、来年度から実施されるような話しの明記がされておりますが、これが実施されるという形になった場合、現状とどのように変わるのか。これ、イメージがまだはっきりしていない段階において、こういった質問をするのも失礼かとも思いますが、わかる範囲内で教えていただきたいと思っております。

最後になりますが、商工会員の方が260名おられるという形なのですが、今回、事業に参加するのは200件という形になっておりますが、それ以外のところについては参加されない要因等々について、何が要因なのか、確認しておきたいと思っております。

○議長（村上和子君） 企画商工観光課長、答弁。

○企画商工観光課長（辻 剛君） 7番 米沢議員からのプレミアム商品券発行事業に関する御質問にお答えさせていただきます。

まず1点目の、限度額5万円ということで、昨年、抽選がされたのか、という質問でございますが、昨年、予約数をオーバーしたのですけれども、件数がちょっと少なかったということで、全体の中で調整しようと、商工会の中でそういう配慮がありまして、5万円の方を4万円まででちょっと我慢していただいて、予約があった方皆さんにこの商品券が配られるような、商工会で配慮、また裁量の中で行っていただいたところでございます。今回、この件数が多い過ぎると、こういった調整は難しいかなと思いますけれども、昨年と同様の、同じ状況であれば、そのような方法をとるのかなというふうに思っております。

次に2点目の、今回の商品券の発券事業に伴います個店での販促でありますとか、商工会自体といいますか、団体での販促活動でありますけれども、1点目といたしましては、商工会のほうに裁量を持っていただいて進めております、商店街活性化事業というものがあまして、例えば、商店街でのイベントですとか、あとは会員の広告ですとか、そういったものに、その財源として充てていただくような事業になってございますので、その中で今回の事業に付随したイベントを開催していただくとか、広告を打つとか、そういうことを想定しているのと、あと、個店の販促もいろいろとさせていただいております、ちなみに昨年の実績で言いますと、ポイント2倍にしたりでありますとか、商品券でものを購入した時の特典だとかを明示した中でお客さんの誘客を図るとか、そういう取り組みがなされておりますので、今回もそういう部分を積極的に取組んでもらえるようにもお願いもしておりますので、それぞれ個店等のアイデアで出てくるのかなというふうにも思います。

次に3点目の町外流出の額なのですけれども、ちょっと今、資料を持ち合わせておりませんので、のちほど、こちらの方についてはお答えをさせていただきたいと思っておりますけれども、ただ、こちらの数字が出ているものは町内の購買額となつてございますので、そちらで読み取るしかないのかなと思っておりますけれども、こちらの方は、のちほどお答えをさせていただきたいと思っております。

次に4点目の、恒常的な商工振興策と言いますか、買い物環境整備、そこでの地域カードの基盤整備についてのご質問がございました。こちらが整備されると現状とどう変わるのか、プレミアム商品券事業がどういうふうになるのかということの趣旨だと思っておりますけれども、現在、商工会におきましても、そういった商業基盤に直接つながる事業、こちらのほうを導入した場合、当然、私どものほうにも支援の要請が来てございます。

商工会としても、あれもこれも、ということにはならないということは十分認識されてございますので、そちらのほうは商工会のほうで協議を深めていただいて、その選択をした形で、私どももできるだけ協力する中で、また基盤整備につながるような、そういう事業には積極的に協力していきたいというふうに思っております。

あと、商工会員の中で268件、ございました。参加しない事業所があるのはどういう要因なのだ、ということですが、例えば建設業ですとか、商品券が多額のもの、もっともっとさらに多額のを扱う業者ですとか、製造卸については直接販売もございませんので、そういうものもありますし、そのうちの賛助会員が24件ほどあるということで、大体、一般的に、先ほども言いましたけれども、小売りとか飲食業、サービス業とかの方の活用が多いということでもありますけれども、先ほども述べました建設業とかの業態を除けば、大体、概ねこの事業には参加いただいているのかなと認識しているところでございます。以上でございます。

○議長（村上和子君） よろしいですか。

7番 米沢義英君。

○7番（米沢義英君） 確認いたします。

今後、地域カード決済システム導入によって、この得々商品券の、また再上程されるかどうか、来年はまだ、わかりませんが、その可能性もあるということになるのか。恐らく、この商品券というのは消費を喚起するというので、消費者の皆さんの方の、促すということで、それはそれとして当然、必要になるかと思いますが、今後、このように恒常的に、毎年上がるということになれば、当初予算で財政措置するというのも一つの案かなというふうに思いますが、その都度、景気の状態を見て対応するということになるのかもしれませんが、その点どのように考えていらっしゃるのか、この点、確認しておきたいというふうに思います。

○議長（村上和子君） 副町長、答弁。

○副町長（石田昭彦君） 7番 米沢議員のご質問にお答えをしたいと思います。

先ほど、担当課長がお答えしましたように、今、商工会のほうでは恒常的な商工事業の活力の強化に向けてということで、特に今、消費税導入に伴って国のほうでキャッシュレス化を進めておりますので、そういう中で地域カードというものを導入し、多くの町民の皆さまがその地域カードを使って消費の喚起につながるような、それに向けては町のほうでもぜひ応援していただきたいというようなお声も商工会のほうからもいただいているところであります。

これにつきましては、しっかりと必要なものについて

は町のほうでも応援していくものは、しっかりと応援していきたいということで、これが地域の恒久的な商工事業の振興・発展につながるようなものとなっていく、というようなことになれば、商工会でもカンフル剤的な要素として、このプレミアム商品券発行事業を商工会のほうからも要望いただいて、町もそれらを理解して、ここ数年、継続的に続けてきたところであります。

そのようなことから、地域カード等の導入がしっかりと軌道に乗るような状況が見受けられる場合においては、商工会においてもプレミアム商品券発行事業については、要望が上がってこないというふうなことを、お互い確認をしているところでありますので、それらについては、そういった事業が定着するあかつきには、この事業については実施をしないという考え方に、町はなっているところであります。

合わせまして、議員のほうからは、商工業の振興・発展という意味合いとは別に、消費者支援というような考え方であれば、こういう事業が恒常的な事業として考えられるのではないかと、というようなご質問であります。これについては別の視点になりますので、そういうことは、はたして必要なかどうか。そういうことは絶対に必要なことになるとすれば、町長においても消費者支援というような、あるいは例えば低所得者支援というような施策として、福祉的な要素としてそういうような事業が考えられるのであれば、それはまた別の要素として考えていかなければならない課題なのかなというふうに認識しているところであります。

○議長（村上和子君） よろしいですか。

7番 米沢義英君。

○7番（米沢義英君） 最後に1点。商品券の。確かに消費喚起ということで住民から要望があれば、当然、プレミアム商品券の発行、低所得者に関わりなく、そういったことも政策的に判断する場合もあり得るというふうに思いますが、そこら辺は経済の動向を踏まえた中での対応になるというふうに思いますが、低所得者だけに限ることなく、一般の方にもこういう対策が必要な時には、そういう必要な対策もとる可能性もあるというふうに受け取ってもよろしいのですか。

○議長（村上和子君） 副町長、答弁。

○副町長（石田昭彦君） 7番 米沢議員のご質問であります。基本的に、今、議員のおっしゃられたような考えは、町のほうでは持ち合わせてございません。あくまでも、状況等、その時その時の状況に応じて、一般の方に単に割引券を出す、町が割引券を出すということが、はたして行政サービスとして必要なことなのかどうか、と理解しているところでございますし、

今、議員からありましたように、社会情勢や経済情勢を考えたときに、例えば低所得者に対する支援が必要な状況にあるのではないかとというような判断があるときには、そのいうものは考え方として、その時その時であるのかなというふうに理解をしているところでございます。

○議長（村上和子君） ここで暫時休憩を入れたいと思います。

先ほどの米沢議員の町外の消費の件について、データをちょっと今。

暫時休憩といたします。

午前10時19分 休憩

午前10時23分 再開

○議長（村上和子君） 休憩を解き、会議を再開いたします。

企画商工観光課長、消費流出の件、よろしくどうぞ。

○企画商工観光課長（辻 剛君） 先ほどの、米沢議員のほうからありました3点目の、町外流出の関係のご質問であります。本当に、概要で申し訳ございませんが、お答えさせていただきたいと思っております。

平成28年におけます当町の購買力は約66億円ということになってございます。その消費先でございますけれども、本当にざっくりとで大変申し訳ないのですけども、日用雑貨については7割以上が町内消費がされているような状況でございますけれども、嗜好品でありますとか、特に家電だとか家具だとかについては、6割以上が町外に出ているということでございます。あと、さらにここ、やはり10数年くらいからネット販売ということがございますので、こちらのほうの流出額が相当なものかなと思ってございます。以上、雑ぱくですけれども、以上が状況でございます。

○議長（村上和子君） よろしいですか。

ほかにございませんか。

5番 金子益三君。

○5番（金子益三君） 今の関連にもあるので、お伺いをしたいのですが、このプレミアム商品券事業なのですが、基本的に、今回、9月以降消費税が上がるということで、これは全国的にわかっていたことなので、まずその、なぜ、その时期的なものをもう少し前倒しをして、こういった商品券事業に対応しなかったのかということをお聞きしたいと思います。

合わせてなのですけども、この10月からキャッシュレスの、例えば交通系のプリペイドであったりだとか、様々な電子媒体のペイのものに関しましては、申請をす

ることによって5パーセントのキャッシュバックがあるというふうなこともなっております。また同時に、そういったものを読み込むリーダーを事前に申し込んでおけば、普通のキャッシュカードについても5パーセントのキャッシュバックが得られるということが、事前に相当、経産省のほうからも通達がありました。本来であれば、大型店舗においてはですね、来年の6月まで5パーセントバックが永遠と続くわけでございますから、このプレミアム商品券に関しては、町外への購買流出、あるいは町内においても、本社が他の市町村に所在するものの店舗について除外をして、100パーセント上富良野町の商工会の中で、町内の中で、こういった購買が喚起されるべきものの取り組みというものが必要だったではなかったのかというふうに考えております。その点、まず、いかがだったのか。

合わせてキャッシュレス対応についてなのですが、これら動向について、今、同僚議員からも様々な質問がありまして、来年度以降に町も、そういった応援をしたいというふうに今、答弁がありましたが、来年の6月までが実は一番おいしい時期でありますし、もっと言いますと、この消費税が上がる前にそういったハードの導入等のものについても、喚起を促すことについて、より有利なものも個店にも提供できたのではないかとというふうに考えておりますが、これら1,400万円という浄財を、このプレミアム商品券事業ということで、また、これ別の事業になるのかもしれませんが、本来の町内の購買力の囲い込み、そして町内の商店街の商工業者が潤うための事業ということであれば、もうちょっと別のやり口があったのではないかなと思っておりますが、その点はいかがでしょう。

○議長（村上和子君） 企画商工観光課長、答弁。

○企画商工観光課長（辻 剛君） 5番 金子議員からのただ今のご質問でございますけれども、10月から消費税対策とか、国でも対策を打っていたりだとかということで、今回、私どものほうで、行政側の補助金という形でプレミアム商品券のほうは助成をさせていただきますけれども、そもそもの、そういう、今回の国の消費税の10パーセント増税への対策でありますとか、取り込みとかという部分での、国でも優遇で端末が入ったりだとか、そういう部分については、基本的には事業者であったり、商工会が主体的に取り組むものであるというふうに思っておりますし、それに合わせて、先ほども言いました地域カードシステムの導入でありますとか、そういうものについても、消費税増税というものを見越した中で商工会ともお話をさせていただいた経過がございます。ただ、时期的にすべての方に、会員に浸透す

るまでに時間がなかったからだという部分もありますけれども、今年はこの形で地域内での消費を取り込むということで、事業を発案させていただいたところでございます。

議員おっしゃるとおり、消費税の増税という大きな節目がございまして、国のほうでは、これを一つのチャンスみたいな形での、そういう対策を打っている訳でございますので、これらを含めて、町と商工会と事業所で、それぞれの役割の中で、地域の商工振興のための事業なり施策というものをとっていこうと今後、思っておりますので、今後、三者の協議の中で進んでいかれるものと理解をいただければというふうに思います。以上でございます。

(「中身。大型店舗の…」など発言する者あり)

○企画商工観光課長(辻 剛君) 答弁漏れがございました。

そちらのほうも毎回どれくらいまで使えるようになるのだという話しをさせていただきますし、私ども、大型店が悪いという訳ではないのですけれども、できれば、もともとある商店街というか、商店の皆さんにできるだけ活用いただきたいというような思いは持っていますけれども、こちらのほうも商工会の考えもあるでしょう。販売するにあたって、大型店でも使えるような、そういう一定の割合が売るためには必要だというような判断があったのではないかと考えてございまして、そちらの組み立てについては商工会が主体で進めてもらうということで、私どもも理解をしているところでございます。以上です。

○議長(村上和子君) よろしいですか。

ほかにございませんか。

(「なし」と呼ぶ者あり)

○議長(村上和子君) なければ、質疑を終了いたします。討論を省略し、これより議案第1号を採決いたします。

本件は、原案のとおり決定することに賛成の方は、御起立願います。

(起立多数)

○議長(村上和子君) 起立多数であります。

よって議案第1号 平成31年度上富良野町一般会計補正予算(第6号)は、原案のとおり可決されました。

◎閉会宣告

○議長(村上和子君) 以上をもって、本臨時会に付議された案件の審議は全部終了いたしました。

これにて、令和元年第7回上富良野町議会臨時会を閉

会といたします。

午前10時31分 閉会

上記会議の経過は、議会事務局の調製したものであるが、その内容の正確なる事を証するため、ここに署名する。

令和元年10月29日

上富良野町議会議長 村上和子

署名議員 米沢義英

署名議員 荒生博一